



「話を聞いてあげる」は、傲慢

[あとで読む](#)

【尊厳ある介護（75）】認知症利用者は、本当にスタッフに話を聞いてほしい？

公開日：2019/05/24 (ソサエティ)

里村 佳子（社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長）

「主人の見舞いに行かなくては」と、施設に入所されている緒方直子さん(仮名95歳)は、ベッドに横たわって不安そうに言いました。緒方さんのご主人は20数年前に亡くなっていらっしゃいます。



CC BY-SA /carmen zuniga

「ご主人はどんな人だったのですか」と聞いてみると、「それは優しい人です。重病で病院に入院しているのです。もう、亡くなったのでしょうか」と、尋ねられました。

「もうお亡くなりになったと聞いていますが」と答えると、緒方さんは「私は主人が亡くなる前、看病もせず申し訳ないことをしました」と、顔をこわばらせました。

「ご主人が亡くなる直前までお世話をして、亡くなる時も側に付き添っていらっしゃったと娘さんに伺いましたが」とお話すると、「それを聞いて安心しました。教えてくれてありがとうございます」と、涙を流されました。

このところ、緒方さんを訪ねるといつもご主人の話を繰り返されます。

緒方さんは認知症で会話が噛み合ったり合わなかったりします。さらに、時と場所が分からなくなる見当識障害もあります。

別の日、緒方さんの居室を訪ねたところ、「ここで良くしてもらっているのです

が、スタッフさんが何度も部屋に来ていろいろ話されるので困っています」と言われました。

それだけでなく「その若いスタッフさんを傷つけてはいけないと思ったので、用事がある時は私の方が呼びますからと伝えました、それ以降は来なくなりました」と、話されたのです。

私は驚いてまじまじと緒方さんの顔を見てしまいました。認知症のある緒方さんの方がスタッフに気を遣ってくれていたのです。

この緒方さんとの会話は、私が今まで腑に落ちなかった介護スタッフからの「利用者の話を聞いてあげたいけど時間がない」という発言に対する答えのように思えたのです。

その発言の前提には利用者はみんなスタッフに話を聞いてもらいたいという思い込みがあります。

果たして本当にそうなのでしょうか。

私は施設で利用者が淋しい生活をしていても、スタッフの誰でもいいから話をしたいと思われるわけではないと考えていたのです。

なぜなら、私であれば話を聞いてほしいスタッフもいればそうでないスタッフもいるからです。

もちろん、その時の気分によっては誰でもいいから話をしたいと思うこともあります。また、話す内容によって聞いてもらいたいスタッフが変わることもあります。

だから、利用者もきっと同じではないかと思っていたのです。

確かに、利用者は私たちと違って社会的役割が少なくなって時間を持て余し、その上コミュニケーションの機会は減少しています。

なので、淋しさを感じる利用者もいます。

そして、そんな利用者へは細かく声掛けをしたり、そっと利用者の側に寄り添ったりする配慮も必要です。

また、お話が好きで時と場所と人を選ばない利用者もいます。際限なく話をされるので、会話を中断することに申し訳なさを感じることもあります。

そのような場合は、「次に仕事があるから改めてお話を聞かせてください」と言って、その場を離れることは悪いことではありません。その代わり必ず後で話をする時間を設けることが大切です。

けれども、スタッフ自身気付いていない「利用者の話を聞いてあげる」といった上から目線では、スタッフ主体の話はできたとしても、利用者が求めている会話は何かを慮り、引き出すことはできないと思うのです。

私たちは利用者「今、お話していいですか」と、聞く姿勢を忘れてはいないのでしょうか。

(注)事例は個人が特定されないよう倫理的配慮をしています。



この連載が岩波書店から2019年5月16日に単行本『尊厳ある介護、「根拠あるケア」が認知症介護を変える』（1944円税込み）で出版されました。

岩波書店での紹介ページは[こちら](#)をクリックしてください。最初の10ページも立ち読みPDFをクリックすれば読むことができます。

電子書店HONTOでの購入は[こちら](#)をクリックしてください。

アマゾンでの購入なら[こちら](#)から。

続報リクエスト

マイリストに追加

以下の記事がお勧めです

- > [里村 佳子のバックナンバー](#)
- > [越後湯沢のリゾートマンション5年がかりでやっと敷地売却](#)
- > [焦るトランプ氏、環境強硬策次々と](#)
- > [まやかしMMTでも、世界を変えてしまう](#)
- > [野党は仏左翼の70年代「三段跳び戦略」に学べ](#)

プロフィール

最近の投稿



里村 佳子(社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長)

法政大学大学院イノベーションマネジメント（MBA）卒業、広島国際大学臨床教授、前法政大学大学院客員教授、広島県認知症介護指導者、広島県精神医療審査会委員、呉市介護認定審査会委員。ケアハウス、デイサービス、サービス付高齢者住宅、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅介護事業所などの複数施設の担当理事。2017年10月に東京都杉並区の荻窪で訪問看護ステーション「ユアネーム」を開設。

いいね! 0

シェア 0

ツイート

LINEで送る

[この記事編集](#)

ソクラとは

FAQ

編集長プロフィール

利用規約

利用案内

プライバシーポリシー

著作権について

特定商取引法に基づく表示

メーカーソクラ

お問い合わせ

お知らせ一覧

コラムニストプロフィール

Copyright © News Socra, Ltd. All rights reserved